

PROS

Proteo-Science Center, Ehime Univ.

愛媛大学プロテオサイエンスセンター PROSセミナー & 大学院特別講義

細胞増殖・腫瘍制御 部門 主催

日時：平成31年4月8日(月) 18:00～(演者2名)

場所：医学部 基礎第一講義室

このたび、プロテオサイエンスセンター 細胞増殖・腫瘍抑制部門 主催のセミナー & 大学院特別講義を開催いたします。皆様のご来場心よりお待ちしております。

がんにおける遺伝子増幅の意義

早稲田大学 先進理工学部 生命医科学科

教授 仙波 憲太郎 先生

がんのゲノム異常のひとつとして、複数の遺伝子を含むゲノム領域のコピー数が増加する「遺伝子増幅」という現象が知られている。遺伝子増幅が見られる領域(アンプリコン)にはMYC遺伝子やEGFR遺伝子などの発がんに関わる遺伝子(がん遺伝子)が存在することから、遺伝子増幅は発がんに関わる重要な現象である。アンプリコンに存在するがん遺伝子を「ドライバー遺伝子」というのに対して、その他の遺伝子は「パッセンジャー遺伝子」といい、発がんには関わらない遺伝子と考えられてきた。しかし、パッセンジャー遺伝子の機能を包括的に解析した研究はほとんどなかった。

乳がんの30%において遺伝子増幅が見られる17q12-21領域には、ドライバー遺伝子としてERBB2(HER2)遺伝子が局在する。私たちはこの領域に存在するERBB2以外の遺伝子がパッセンジャーなのか、発がんに何らかの関与を持つのかを知る目的で、がん細胞の特性を評価するさまざまな系を用いてそれらの機能を調べた。その結果、ERBB2と協調的に形質転換を促進する遺伝子や、浸潤や転移に関わる遺伝子が存在することが明らかになった。このことは、遺伝子増幅がおよぶ範囲の違いによって、HER2陽性乳がんの病態が異なる可能性を示唆する。本セミナーでは、ERBB2と協調する遺伝子のスクリーニングについても紹介し、がんにおける遺伝子増幅の意義とERBB2を軸とする発がんと悪性化の機構について考察したい。

◆お問い合わせ：プロテオサイエンスセンター 細胞増殖・腫瘍制御 部門 内線：5253(東山)

なお、本セミナーは医学系研究科を対象とした大学院特別講義としても実施します。

大学院生は、当日配布されるレポート用紙に講義概要等を記述し、提出してください。

